



燦々と燃ゆる陽



本別高校HP QRコード

令和4年度 地域連携特例校の活動

地域の教育機能の維持向上の観点や高校が果たしている役割等を踏まえ、第1学年1学級の高校のうち、地理的状况等から再編が困難であり、かつ地元からの進学率が高い高校を「地域連携特例校」に位置付け、地域連携協力校等と連携した教育活動により、教育環境の充実を図ることとしています。今年度から本別高校は地域連携特例校となり、以下の連携した活動が行われることとなります。

● 地域連携協力校（帯広柏葉）、北海道遠隔授業配信センター（T-base）との連携

地域連携協力校（帯広柏葉）とは生徒会交流、部活動、進路活動など授業以外の教育活動や教職員研修など連携した活動が行われます。また、北海道遠隔授業配信センター（T-base）と連携した教育課程編成による多様な科目設定、進路希望に応じた遠隔システム（遠隔配信）による授業や進路講習の実施。今年度は、1年生の数学・英語の授業、全学年で進路講習を行います。



● 地域連携特例校（標津高校）との連携

地域連携特例校間での遠隔システムを活用した生徒交流や教職員研修などもあります。今年度、根室管内の標津高校と連携した活動を行います。主に、探究活動の交流活動を予定。標津高校は、自然環境系科目の授業で標津の自然環境に関する課題研究を行っています。本校の探究活動「とかち創生学」とは異なる科学的な視点が含まれています。本校の探究活動をより充実させるための取り組みとして期待されます。



● 地域と連携（コミュニティ・スクール）した取組

既に、本校では導入済みであり、学校と地域の連携・協働をより一層推進するため、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を活用しています。こうした組織の支援等のもと、地域の様々な教育資源を積極的に活用して、生徒の社会に参画する意欲を育んだり、地域の担い手としての自覚を高めたりするような教育活動を推進するなど、学校と地域が連携した高校の魅力化や特色づくりを一層進めていきます。



【熱血先生紹介】

北海道遠隔授業配信センター（T-base） 教諭 加藤 将司

1年生英語コミュニケーションⅠ担当。5月9日から遠隔授業が始まるに当たり、4月19日来校し、自己紹介と学習に係るオリエンテーションがなされました。本校での学びの目的・目標設定について、パラリンピックの選手の話題をもとに授業が行われました。

★ 祝 ! バドミントン二部 ダブルス優勝 ★

2年生 井出依快さん・瀧澤里妃さん [本別中出身] ペア

4月16日・17日に開催された第12回全十勝春季バドミントン大会兼第77回国民体育大会バドミントン競技北海道予選会(少年の部)十勝地区予選で、バドミントン部 井出依快さん・瀧澤里妃さん ペアが優勝

しました。今回の活躍について、この2人へのインタビューです。

(インタビュアー:校長)



Q1 おめでとうございます。優勝した感想は？

(井出) バドミントンは小学校3年から始め、初めての優勝だったのでうれしかった。

(瀧澤) バドミントンは小学校1年から始め、管内での優勝は初めてなのでうれしいです。

(2人) 昨年からペアを組んでおり、2回戦ぐらいで負けていました。ペアで時間をかけて練習してきたことが優勝という結果につながったと思います。また、練習においては、男子ペアとの実践形式の練習も多く行ってきたので、技術的・体力的な向上もあったと思います。男子ペアにも感謝したいですね。

Q2 さて次の大会は。意気込みを聞かせて下さい。

(瀧澤) 5月26日～28日の3日間、バドミントンの高体連が開催されます。今回は一部のペアの選手達も含めたトーナメント戦となり、厳しい戦いとなることが予想されるため、少しでもいい結果が残せたらと思います。

(井出) ダブルス以外に、団体戦も出場するので、このペアで1勝して、少しでも団体戦で本別高校の上位進出に貢献できればと思っているので、頑張りたいです。

Q3 部活以外に今年度、挑戦したいことは何ですか。

(瀧澤) 将来は外国語を活かした職業に就きたいと考えているので、英語検定2級の資格取得に挑戦したいです。

(井出) 将来は理系大学で化学を学びたいので、放課後、講習等で学力を付けたいです。また、漢字検定3級を持っているので準2級に挑戦します。さらに、英語検定にも初めて挑戦しようと思っています。

(校長) 試合を想定した実践形式の練習、部員間のコミュニケーションの良さが結果につながっている印象を受けました。今後の挑戦に期待しています。(*^o^*)